

最上の子どもたちのために

# 未来へ紡ぐ

- ◆ 最上教育事務所指導課通信
- ◆ 令和8年2月6日
- ◆ 最上教育事務所指導課
- ◆ 第 11 号

## 中堅教諭等資質向上研修第2回授業研修 兼 校内研修特別講座 令和8年1月22日(木)

中堅教諭等資質向上研修 最上教育事務所における研修は、教科指導力の向上をめざして、年2回の研修を行っています。講師に、山形大学 中井 義時 名誉教授をお招きし、授業への指導・助言や校内研修の充実に向けた講義をしていただきました。中井教授の講義は、今年度も「校内研修特別講座」としてオンライン配信を行いました。



### 授業参観

中嶋 恭平 教諭  
(日新中)  
第2学年社会科  
「明治維新」



### 研究協議

間違いを含む生成 AI で作成した文章を提示していました。明治時代に行われた3つの改革を比較し、「社会事象の歴史的な見方・考え方」を働かせるしかけが意図的に位置づけられていました。

ICT (ミライシード) を活用して、生徒の疑問や考えた過程が共有されていました。中嶋教諭は、生徒の考えを整理するとともに、生徒に注目してほしい視点を書き込み、学びを深めようとしていました。



### 実践報告



### 講義

#### 4. 授業づくり構想の具現化に向けた3つの提言

- (1) 具体的な目標設定**  
目標として、授業で求める**具体的な子どもの姿**を描くこと。  
→子どもの姿のイメージは、日々の子どもの姿の読み取りから  
→子どもの現状から、目標達成の手立てへ
- (2) 目標達成のための手立て**  
求める具体的な子どもの姿の現状(○よさと▲課題)を的確に把握  
(評価)し、「○よさをさらに伸ばす」、「▲課題を解決する」実践方法を考え、日常的、継続的に取り組むこと。
- (3) 一人一人の教員の研究計画**  
一人一人の教員が目標達成の「**研究実践年間プラン**」を作成して実践し、同僚との対話も取り入れながら自己評価していくこと。

1年間取り組んできた自身のテーマについて、授業実践を報告し合いました。同期の実践に多くを学び、自身の実践にも生かそうとしていました。

中井先生より、「次年度の校内研修の充実に向けた日常的な教育実践『自律(個)と対話(集団)』と題して御講義いただきました。教科の見方・考え方は「根拠を探す旅!」

- ICT を活用することで、1対1が複数の人との関わりに広がるメリットを感じました。また、教師の出方や子どもへの委ね方について考えるきっかけにもなりました。
- AI の情報を疑って見てみるという体験は、生徒の情報モラルを育むことにも一役買っていると感じました。教科書や資料集が自然と必要になるというのもこの課題提示の効果だと感じました。また、それぞれの考えがまとまりだした授業の後半に生徒同士の対話が生まれていました。生徒は、一人一人が自分なりに根拠を持つことができないと対話が生まれないということに気づかされる授業でした。
- 生徒のゴールの姿を具体的にイメージし、具体的な学習活動のわかる課題を設定することの大切さを知ることができました。研究主任として、日々授業について気軽に話し合える関係作り・土壌づくりにも取り組みたいと思いました。(オンライン参加者)

★振り返りより★

# 「教科担任マイスター制度」兼「確かな学力育成支援（M-TEP）」

C：チーム研修型 小学校算数部会 公開授業研究会 令和8年1月23日（金）

「確かな学力育成支援（M-TEP）C：チーム研修型」の小学校算数部会は、教科担任マイスターの日新小学校 曾野部 伸弥先生、新庄小学校 姉崎 壮一郎先生、真室川小学校 吉浦 恭介先生、戸沢学園 高橋 恒先生の4名がチームとして授業づくり（単元・評価検討会、指導案検討会）を行い、1月23日に日新小学校（重点校）を会場に授業研究会を実施しました。当日は山形大学大学院教育実践研究科の森田 智幸准教授より授業への指導・助言をいただくとともに、「子どもがわかった!できた!を実感できる授業づくり」について、講義していただきました。

森田智幸先生より

- ・算数の思考探求は、パターン認識・法則の発見・法則の適用によって実現すること。⇒正しい答えを出すことがゴールだと思いがちだが、算数が苦手な子ども数や形のきまり（どんなパターンで表されるか）を見つけたり考えたりする活動に参加させていくことが大切である。
- ・教師も「できない」「わからない」でつながるコミュニティをつくり、日常実践につなげる。



## ～参加された先生方の声～

- ・教師として、この1時間の中でどこまでをねらうのか、確実におさねなければいけないところはどこなのかの落としどころを明確に持つておく必要があると感じました。
- ・単元の1時間目に、自分で答えを出す過程を徹底して見守り、互いの考えを比較し合うことで、次時からは樹形図の便利さやかけ算を使うことよさが実感を伴って理解できると思いました。
- ・ICTは、振り返りだけでなく、児童の考えを比較するとき有効な手立てだと思いました。

## 2年次・3年次フォローアップ研修 令和8年1月20日（火）・27日（火）

第2回フォローアップ研修では、「特別の教科 道徳」に関する授業実践報告及び協議を行いました。参加者は、各自の実践や授業資料を持参し、教材研究の工夫、指導過程の改善点、児童生徒の変容等について具体的に交流しました。さらに、授業づくりにおける課題や日頃感じている難しさについてグループごとに協議し、改善に向けた方策を検討しました。他校との意見交換を通して多くの学びが得られ、道徳科指導の充実に向けた研鑽の場となりました。

2年次研修事業  
アンケートより



子どもたちにどんなことを考えさせたいのか、大切にしたいことは何かを明確にし、子どものつづやきをしっかりと拾いあげながら授業を展開したい。



これまででは児童が自分の考えを深めるような授業が多かったが、多面的・多角的に考える授業の大切さも感じ、内容項目に合わせてどこを目指し、どのように向かっていくのかをさらに意識していきたい。

3年次研修事業  
アンケートより



正しい行動を示したり、伝えたりしたくなってしまいがちだが、児童の「なぜそのような行動を選択したのか」「その行動をするときの迷いや決断」に目を向け、児童が自分の内面に向き合えるようにしたい。



本音を話さない生徒や書きたがらない生徒、難しいことを考えようとしない生徒など、様々いるが、生徒をつなぐことで新たな気づきが生まれたり考えを深めたりすることができるようなコーディネート意識したい。